

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### 【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### 【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### 【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム たみの里-日乃出町
(ユニット名)	1階、2階
所在地 (県・市町村名)	静岡県富士市
記入者名 (管理者)	鈴木はるみ
記入日	平成 20年11月18日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム理念「生き生き生きる」という目標を掲げ、職員皆いちがんとって理念達成を目標としている	○ 生き生き生きるの目標を全員で一丸となって薦めている
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員、管理者が共有する理念であり常に原理として意識している	○ 目標をみんなの目の届く所に掲示して、日々目を通して
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	権利義務は入居のしおりに記載し、御家族様、入居者様には説明をしている また、地域に向けては季節ごとの行事等に参加する事によってその都度ふれるようにしている	○ 開かれたホームを目指し、地域住民の方々との交流の場を多く持つようにしていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	援助をお願いすることもあるので、隣近所の方々とのお付き合いは大切にしていきたい	○ 日常の会話や挨拶を心がけている また、施設行事へも参加していただくよう声掛けを積極的にしている
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会合や行事などには出来る限り参加するよう心がけている	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に住んでいる高齢者や独居老人宅に訪問してホームへ足を運び、活動と一緒に参加していただくよう働きかけている	○	不定期ではあるが、フラワーアレンジメントの会に誘っている 今後はこの会の定着を計りたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	不定期に自己評価を実施し自己を見直す機会としている。また、外部評価を活かして日々のケアの改善に取り組んでいる		月に一度職員同士の話し合いを行い、自己研鑽に勤めている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っている	○	2ヶ月に1回の運営推進会議の中で町内会長や行政職員からアドバイスを受け施設運営に生かすようにしている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新手続きなどに入居者様を御連れして行ったり、介護保険課とわからないことなどが生じた時はこまめに連絡を取っている		グループホーム間での近況報告や行政への相談がけをする
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度に入り青年後見人制度を申し立てる御家族があり、一部職員も研修に出向いたりしてアドバイスの出来るようにしている	○	地域支援にも活用できるように勉強していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加したり、職員同士の話し合いの中などで虐待防止に繋がるような働きかけを心がけている	○	一口に虐待といってもいろいろあるが、先ず入居者様の尊厳を大切に名前をフルネームで呼ぶように職員間で注意している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を家族入居者に時間をかけて行い理解を図っている	契約書を2部製作し家族、ホームで不信を招かないように時々点検をする
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、受け付け体制のある事を明示している また、あがった苦情や意見等については素直に聞き、ミーティングにて職員間で検討し運営に反映させている	○ 意見箱を設置している 日頃からコミュニケーションに勤めるようにしている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料請求時に御便りを同封し、担当の職員より日頃の暮らしぶりを報告している	○ 入居者の近況は伝えているが、面会に来られる事が少ない家族には出向いてくれるチャンスを作りたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの不満要望があれば、管理者が直接うかがい時間をかけて話し合いを設けるようにしている	○ 玄関に意見箱を設置しているが記載して頂く事が無い為、今後工夫をしていきたい。運営推進会議の際などに意見を聞いている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや月に1回のミーティングで意見を出し合い提案の検討を行っている	季節行事等の運営遂行を担当に任せて実現に向けてのバックアップに心がけている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1ヶ月の業務予定の中で柔軟な勤務体制作りに心がけ、緊急時には連絡網を通して対応出来るようにしている	職員に不足が生じた場合は、管理者や計画作成担当者が代わりに勤務に入れるような体制を取り柔軟に対応している
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすい職場作り励み、なじみの職員による支援が受けられるように心がけている	○ 職員の働き甲斐のある職場作り

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員の能力や適正に合わせて研修に参加させ、研鑽を積みより良いホーム作りに心がけている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市のグループホーム連絡会に参加し、情報の交換や行事の共有を行っている	○ 招待を受けて出かけることはあるが、当ホームへ招待した事がないので、これからは積極的にアピールしたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間や場所を確保して、ストレスがたまらないように配慮している	○ 休憩の取れるような体制作りをしている。また、親睦会の開催や食事会を計画していきたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個々の性質や性格などを理解して、独自の新鮮なアイデアも生かし、向上心を持って働けるように今後も努める	○ 一人一人の勤務状況を把握し、働きやすい職場作りに努める。関心のある研修を各自が選んでいけるように掲示するなどして向上心を育てていきたい
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	挨拶をしっかりとし、安心して相談できるよう対応をきちんとする	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談・利用の働きかけが合った場合、速やかに対応出来るように心がけている	相談者の話をよく聞き、必要に応じた適切なアドバイス等が出来るように情報の提供をしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・利用の働きかけが合った場合、受けたサービスを見極め柔軟な対応が出来るよう常日頃から他機関と連絡を取っている		富士市内グループホーム連絡会のネットワークの構築
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が自然にホームに溶け込めるように、利用前のお試し入居を検討している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を御世話しているという意識をもち、家事など参加できる事は一緒に行ったり、昔の話や遊びを通して教えられるような関係作りをしている		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会にこられた時など、入居者の近況をお知らせし、そのとき入居者の抱える問題があれば家族のアドバイスを頂き入居者が安心して暮らせるように支援している	○	面会の少ない家族に対しては、ホームに出向いて頂けるような取り組みを考えていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠になりがちなところ、ホームとして行事に参加してもらうなど機会を設けるようにしている	○	外出計画への参加や家族が快く訪問できるホーム作りをしていきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人がいつでもこれのホーム、または、なじみの場所へいつでもいけるホーム作りを目指したい	○	本人が行きたいと思った時にいつでもいける体制作りをしていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中レクリエーションなどを通して、入居者同士の係わり合いに努めている	○	一部1・2階趣味活動を通じて行き来があり、このような関係作りが他の入居者にも広がるよう働きかけを行いたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても良好な御付き合いが出来るように行事等の折には必要に応じて連絡をしていきたい	○	ホームの行事時には御便りを出すなど連絡をする
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活への意向を出来る限り把握して、希望に沿ったサービスが受けられるように努力する	○	出来る限り本人の意向に沿って住みよいホームにしたい また、ホームで対応できないことは家族にも協力をお願いしていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らし方、生活環境を家族が来られた時などの聞いて把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームでは大まかな日中の過ごし方が決まっているが、その時々状態に合わせて過ごせるよう観察に努めて情報の共有をするようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や訴え、状態の変化に応じて対応できるよう月1回カンファレンスを行い検討している	○	入居者がよりよく生活できるように本人のみでなく家族の思いも聞きながらカンファレンスが行えるようなシステムを作って行きたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態の変化に伴って計画の見直しをし、家族にも同意を得るようにしている	○	家族へ状態等の変化を機会あるごとに情報として提供していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日中の様子は、生活記録に記入している また、交代勤務の職員にも日中の情報が伝わるように毎日朝、夕申し送りをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族会等の場所の提供などしていききたい また、家族同士の情報交換の場としての役割も果たして行きたい	○	家族会を開催するよう努力しているが、実現に至っていない
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議開催時に情報交換や話し合いを行っている	○	防災訓練や行事等で地域の方にも参加していただけるように役割を果たして行きたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問歯科の利用や訪問マッサージの利用など積極的に取り入れて入居者に提供している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	いつでも共同できるように態勢を整えるようにしているが、現在の実績はない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期診断は入居時に本人がこれまで掛かっていたかかりつけ医に受診しているが、緊急時を考え家族、本人の了解を得て往診していただける医療機関とも連携している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1回認知症専門医に受診している		状態の変化が合ったときは、受診日でなくとも連絡を取り薬を調整している
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護日誌をつけ職員が医療情報を得られるようにしている また、日ごろの変化や健康状態がわかるように管理表を付けている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の入居者を見舞いながら、家族と医療機関との連携を保ち情報交換や相談を取り入れ、早期退院に勤めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて全職員が意識統一して取り組めるよう話し合いをしたり、勉強している	○	他の施設の実施例などを全職員に提供していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	カンファレンス時にターミナルについて話す、実際に該当者が居ないため大きな動きは現在はないが、最期まで看取るということについては意識確認している	○	重度化や終末期に向けて職員の資質向上のための研修を行って行きたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	外泊等はあるが住み替えは該当者が居ない、希望があれば本人にとって一番良い形になるよう支援していきたい		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	情報の取り扱いについては、職員の守秘義務を遵守し、はこりやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしないようにしている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の生き生きした言葉や笑顔が引き出せるよう言葉かけや雰囲気作りをしている	○ 個人が多く選択ができるようなサービスの提供
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自由に自分のペースで生活が出来るよう常に問いかけを行っている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望によって美容院へ行ったり、買い物へ行ったりして本人の望身だしなみが出来るようにしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際に希望を聞いたり、季節間のある献立になるように工夫している また、下ごしらえなど出来ることは手伝っていただいている	外食などを計画して、気分転換を図り食欲が増すよう計画している また、楽しく食事が出来るように話題提供して、雰囲気作りに努めている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われる入居者は居ないが、入浴後に飲酒される入居者がいる 問題がない限り本人の意向に沿って楽しめるようにしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターン及び生活習慣を把握して時間誘導したり、排泄の記録を付けて管理をしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望と体調によって自由に入浴できるようにしている	○	一人ひとりがゆっくりと入浴できるようにしていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるようにベッド周辺の環境整備をし、入眠時間については本人の希望に任せている		天気の良い日などは布団を干したり、シーツを洗濯したりしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴、職業、趣味などを生かしてそれぞれが役割分担して作業などに当たっている	○	本人らしい暮らしが出来、活動意欲が出せるように工夫していきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際は、財布から支払いをお願いしたりして金銭感覚がどうのかわないようにしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月の計画に外出を入れたり、毎日の運動の中では天気の良い日は散歩に出かけるようにしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームでは外出が出来ているが、家族の参加はこれまでにない	○	外出への参加を呼びかけて行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が職員に気兼ねなく家族に連絡が取れるよう、廊下に電話を置きいつでも使えるようにしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも可能であり、訪問しやすいように雰囲気作りに努めている	○	希望があれば気軽に宿泊でき、宿泊したいと思っただけのようなホーム作りをしていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないということを全ての職員が正しく認識しており身体拘束のないケアを実践している	○	今後も継続していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、徘徊のある入居者には見守りをしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の挙動に関してプライバシーに配慮しながら見守りをしている	○	入居者の行動を制限することのないように職員同士が声を掛け合いながら見守りをしていく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の持ち物の中にははさみ等の危険なものもあるが、取り上げるのではなく所在の確認をきちんとした上で安心して遣うことができるように見守る		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態に応じて安全な生活が出来るよう、ミーティング等で話し合い工夫をしている	○	ミーティングにおける日やりハットの有効活用

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルの作成をしたり、応急対応の研修に参加するなどしているが、定期的には行っていない	○	防災訓練などを利用して、定期的に訓練を行って行きたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施する	○	災害時には近隣の協力を得られるように、地域との交流を深め一緒に訓練活動が出来るように計画していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に来られる家族には日常の様子など必ず伝えるようにし、来られない家族にもお便りなどで現在の様子を伝えるようにしているすこしn		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日健康チェックを行い一人ひとりの体調の変化を見逃さないようにしている、入浴時には全身観察を行い変化があれば情報として全員が共有できるようにしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の通院状況や服薬情報などは記録に残し情報の共有を図るようにしている	○	本人の既往症や服薬の情報を一目でわかるようにしていきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事のバランスや飲食物の工夫を行い、水分摂取を促したり、排便チェック表を使って体調管理している また、医療とも連携を図り薬によるコントロールも行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きを行っている また、訪問歯科医が毎週来て口腔内清拭を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間のメニュー決める際に、同じ食材や献立が重ならないように気をつけている 一人ひとりの状態に合わせた形態や量を提供するようにしている	○	管理栄養士による献立の見直しをしていきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種は年に1回おこない、手洗いやうがいはその都度殺菌消毒をするようにしている ノロウイルスの出やすい時期などには生ものの提供は見合わせるなど注意している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具に関しては夜勤帯で消毒をし、食材は新鮮なものが提供できるようこまめに業者に発注をしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を取り入れ、清潔にして近隣の方々が気持ちよく訪問できるようにしていきたいが、手入れが十分に出れないことが多い	○	施設周辺の清掃日を月1回設けているが、入居者のADLレベルの低下等によりできていない 今後は無理のない範囲で定期的に行って行きたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下の掲示物などを季節後と張り替えて季節感もてるようにしている リビングには植物を置いたり、ゆったりとした生活音が聞こえるようにしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで本人の自由に過ごせるように配慮している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にこれまで使用していたなじみの家具を持ち込み、配置等も本人の意向に沿って配置している	○	作業などで作った作品などを飾ったり、清潔に過ごせるよう注意している
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール居室など常に換気を行っている また、温度調節は入居者の状況に応じて調整している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置している	○	行動パターンや生活習慣を考えて、創意工夫して安全確保に努めていく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	なじみの生活環境を損なわないようにし、一人ひとりの分かる力を職員が把握して残存能力を最大限生かせるように支援していく		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	少しのスペースだが植物を植え、季節が感じられるようにしている	○	季節感のある植物や実が収穫できるような樹を植樹して楽しめるようにしていく

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

残された余生を快適に過ごしていただくためにボランティアを受け入れ、楽しいひと時を過ごしてもらったり、外気浴に出掛けたりと楽しい思い出作りをして差し上げたい。